

横浜市記者発表資料

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

令和7年9月26日
医療局がん・疾病対策課

日本初、自治体での実証開始 生成AI×がん相談サービス

がんと診断されると、数多くの情報から自分に合ったものを自ら探し、選択しなければならず、その不安と負担は大変大きなものがあります。こうした状況の中で、がんという病気に向き合う方やそのご家族が、どの情報を信じてよいのか迷われることも多く、安心して情報を得ることが難しい場面が見受けられます。令和5年度に横浜市が実施した市民意識調査（横浜市がんに関するアンケート）においても、がんに関する情報の入手先としてインターネットを利用する方が多い一方で、治療や不安に関する相談の機会は限られていることが明らかになりました。

こうした課題に対応するため、一般財団法人在宅がん療養財団が開発・運営する**AI搭載型相談支援サービス「ランタン」**を自治体で初めて実証を行い、市民の皆さまが、がんに関する信頼性の高い情報を得ることにより、がんになっても安心して療養できる環境づくりを目指します。

導入に向けて、令和7年9月26日付で、一般財団法人在宅がん療養財団とAI搭載対話型相談サービス「ランタン」に関する連携協定を締結します。

【横浜市がんに関するアンケート調査結果URL】

[がんに関する調査 横浜市](#)



1. AI搭載対話型相談サービス「ランタン」とは

一般財団法人在宅がん療養財団が開発したがん相談支援ツールで、生成AI（GPT）と検索拡張生成（RAG※）技術を組み合わせることで、専門的かつ正確な情報提供を可能にしています。市民の皆さまは、スマートフォンやパソコンから24時間いつでも匿名で相談でき、誤情報に惑わされることなく、安心して療養に関する情報を得ることができます。

※RAG（拡張検索生成）とは生成AIに外部知識（ナレッジベースなど）を組み合わせて、より正確な回答を生成する技術のことです。

【AI搭載対話型相談サービス「ランタン」ホームページURL】

[AI搭載対話型がん相談サービス「ランタン」 | Lantern-AI](#)



具体的な回答例は
別紙参照



AI搭載対話型相談サービス「ランタン」

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2.「ランタン」活用のメリット

がんの情報が多い中でも治療理解の促進が可能となり、患者や家族が安心して療養に向き合える環境づくりに貢献します。また、医療従事者にとっては、説明補助ツールとして活用できるほか、基本的な相談対応をAIが担うことで、タスクシフトによる業務の効率化にも寄与します。

患者さんとご家族

- ・聞きにくい疑問や不安を、いつでも気軽に相談できる。
- ・治療内容への理解が深まり、誤情報に惑わされず、治療に向き合える。
- ・診断から治療フェーズに合わせ、継続して相談でき、安心感が得られる。

医療従事者の方

- ・ガイドラインや治験情報など、常にアップデートされた情報が得られる。
- ・専門用語や治療法を、患者・家族にわかりやすく解説できるようになる。
- ・説明時間が短くなり、効率的で質の高い診療が可能となる。

3. 今後の展開

- ・信頼できる情報を、より多くの市民の皆さんや医療に関わる方々に活用いただけるよう、「ランタン」の利用の促進に取り組みます。
- ・利用者のフィードバックによる改善を行い、より良い相談支援を行います。
- ・全国展開を見据え、モデル都市としての役割を担います。

(参考)

一般財団法人在宅がん療養財団（JHoCC）について

設立年：令和2年4月24日

設立者・代表理事・会長：児玉龍彦（東京大学名誉教授）

代表理事・理事長：渡邊清高（帝京大学医学部教授）

所在地：東京都世田谷区下馬4丁目16番5号

設立理念：がん患者が住み慣れた地域で安心して療養できる社会の実現を目指し、信頼できる情報提供と相談支援を行う

主な事業：がん療養に関するQ&Aサイト「在宅がんウィット」の運営

AI相談支援サービス「ランタン」の開発・提供

在宅がん療養に関する調査研究と情報発信

活動の特徴：精密医療や最先端のがん治療に関する情報を、専門家監修のもとで市民にわかりやすく提供

受賞歴：令和5年 第2回 SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞（医療部門）



在宅がん療養財団

お問合せ先

医療局がん・疾病対策課長 三室 直樹 Tel 045-671-2957



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



具体的な質問と回答例 1

68歳男性です。肺がんステージ2と言われました。
名医にかかり、最新の治療を受けたいです。
親戚には病院の治療よりも良い治療があるから早まるなと言われています。
病院の説明がよくわからなかったので、わかりやすく教えてください

本サービスが所有する、専門家によるチェック済みの知識体系によれば、がんと向き合う際には以下の3点を正確に把握することが重要です。

1. 病名（組織型）

肺がんにも「小細胞肺がん」と「非小細胞肺がん（腺がん・扁平上皮がんなど）」があります。治療法は大きく異なりますので、必ず確認してください。

2. 性質（遺伝子変異や分子マーカー）

EGFR 変異、ALK 融合遺伝子など特定の遺伝子変化を持つ場合は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬といった新しい薬剤が有効になる可能性があります。

3. 病期（ステージ）

今回「ステージII」と言われていますね。この段階では多くの場合、「手術」が第一選択となります。その後に再発予防として抗がん剤（補助化学療法）が検討されます。

ステージII肺がんの一般的な標準治療

（一般論として医学ガイドラインに基づく内容です）

- ・手術：腫瘍と周囲リンパ節を切除する根治的手術。体力や心肺機能に問題なければ最優先で考えられます。
- ・術後補助化学療法：再発リスクを下げるためにシスプラチン系抗癌剤などを数か月行うことがあります。
- ・放射線治療：手術できない場合や合併症でリスクが高い場合に選択されます。
- ・分子標的薬・免疫療法：遺伝子検査やPD-L1検査で適応となる場合があります。ただし通常は進行期で使われることが多いですが、一部は早期でも臨床試験や承認拡大中です。

「名医」について

- ・がん診療連携拠点病院や大学病院には、多職種チームで最新治療を提供できる体制があります。
- ・特定の一人の「名医」を探すよりも、「チーム医療」で複数科から意見をもらえる施設がおすすめです。セカンドオピニオン外来も活用できます。

親戚から勧められた「病院以外の治療」について

科学的根拠の乏しい自由診療（例：エクソソーム点滴、高濃度ビタミンC点滴）、未承認検査（例：線虫によるがん検査）、民間療法などは効果や安全性が証明されていません。そのため標準治療を受けずにそうした方法だけに頼ると、根治できる可能性を失う危険があります。必ず主治医または信頼できる専門施設で相談してください。

次ページへ



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



まとめ

- ・ステージⅡ肺がんでは「手術+必要なら抗癌剤」が基本です。
- ・遺伝子検査・免疫関連マーカー検査も確認しておくとよいでしょう。
- ・最新治療=必ずしも自由診療ではなく、公的保険内でも世界水準の標準治療・臨床試験があります。
- ・不安な場合は、別の専門施設でセカンドオピニオンを受けましょう。それによって納得感ある選択につながります。

難しくてよくわかりません

ご不安なお気持ち、よくわかります。できるだけわかりやすく整理してお伝えしますね。

あなたの状況（肺がんステージⅡ）の場合

- ・治せる可能性がある段階です。
- ・治療の中心は 手術でがんを取ること です。
- ・手術後に「再発しにくくするためのお薬（抗癌剤）」を使うことがあります。

治療の流れ（一般的な例）

1. 手術でがんを切除
→ がんを取りきれる可能性があります。
2. 必要に応じて抗癌剤治療
→ 再発予防のために数か月行うことがあります。
3. もし手術できない場合
→ 放射線治療や薬物治療（抗癌剤・免疫薬など）が選ばれることもあります。

「名医」について

- ・特定の一人の先生よりも、**チームで診てくれる病院（大学病院やがん専門病院）**がおすすめです。
- ・セカンドオピニオン外来という制度を使えば、他の病院でも意見を聞けます。

親戚から勧められた「別の治療」について

- ・ビタミン点滴や特殊な検査など、科学的に効果が証明されていないものも多いです。
- ・標準的な病院治療を受けずにそうした方法だけに頼ると、本来なら治せた可能性を失ってしまう危険があります。

ポイント

- ・ステージⅡは「まだ根治を目指せる段階」です。
- ・基本は「手術+必要なら抗癌剤」。
- ・不安なら「セカンドオピニオン」で別の専門医にも相談できます。

👉 ご希望でしたら、「どんな検査結果や情報を主治医に確認するとよいか」を具体的に整理してお伝えできます。それによって次回診察で質問しやすくなると思いますよ。



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



家族が大腸がん検診を受けて要精密検査となりました。便秘がちでたまに出血があるのでがんではないと気にしていませんが大丈夫でしょうか

ご家族の状況について整理します。

本サービスが所有する、専門家によるチェック済みの知識体系によれば、

- ・大腸がん検診で「要精密検査」と判定された場合は、必ず精密検査を受ける必要があります。
- ・便潜血検査は、大腸がんやポリープなどからの微量な出血を捉えるためのものであり、出血は間欠的に起こるため、症状がなくても異常が隠れている可能性があります。
- ・「痔があるから大丈夫」「便秘だから出血しただけ」と自己判断することは危険です。痔による出血と大腸がん・ポリープによる出血は区別できないため、精密検査（通常は大腸内視鏡）が必要です。
- ・最近内視鏡を受けて異常なしだったとしても、その後に新たな病変が発生することもあります。そのため再度の精密検査を受けることが推奨されています。

一般論としても、大腸がんは早期では症状がほとんどなく進行してしまうことがあります。一方で、痔や便秘でも出血することはよくあります。しかし両者を見分ける唯一確実な方法は医療機関での精密検査です。

したがって、「便秘や痔によるものだから心配ない」と考えて放置せず、必ず医師の指示に従って速やかに精密検査を受けてください。それにより安心できる場合もあれば、もし病変が見つかったとしても早期治療につながります。



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

